

事務事業名		葛生化石館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	4 豊かな心を育む教育・文化づくり					担当組織	担当部	生涯学習部	担当課	葛生化石館
	政策	2 生涯にわたり学びのあるまちづくり					担当係			担当課長名	金原隆徳
	施策	3 歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 地域の歴史・文化の理解の促進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14837	一般	10	4	4	葛生化石館運営事業					
	事業区分	市単独事業・国県補助事業					市単独事業				
		任意的事業・義務的事業					任意的事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市郷土博物館条例					
	重点課題	リーディングプロジェクト					該当なし				
		実施方法					直営				
事業分類					その他内部事務事業						
市単独事業					市単独事業						
任意的事業					任意的事業						
実施方法					直営						
事業分類					その他内部事務事業						
リーディングプロジェクト					該当なし						
重点課題					該当なし						
市長マニフェスト					該当なし						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成23年度実績(平成23年度に行った主な活動内容)							
葛生化石館を運営していくための事業で、標本を管理、整理するための臨時職員にかかる経費、資料寄贈者などへの謝礼、調査などにかかる旅費、事務用経費、ボランティア保険、展示用パネルや標本作成にかかる経費など年間を通じたもの。			<ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員による標本管理、事務補助。 ・ボランティア勉強会、研修会、資料収集。 ・案内板作成。 ・パソコン、複写機借上げ、各種事務用消耗品購入。 							
活動指標			単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)		
パンフレット配布枚数			部	7,000	7,000	7,000	70,000	7,000		
収蔵資料数			点	1,639	1,649	1,653	1,663	1,673		
入館者数			人	14,767	15,167	17,217	15,500	15,500		
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市民及び市外からの入館者 展示資料			対象指標	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)	
市民の人口			人	125,639	124,999	124,299	123,772	123,247		
展示資料数			点	576	576	606	606	606		
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
より多くの人に化石・鉱物などについて知識を深めてもらう。 入館者に利用しやすい環境を整える。			成果指標	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	
入館者数/市民の人口			%	12.0	12.1	13.9	13.0	13.0		
説明解説を受けた入館者数/入館者数			%							
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育ててもらおう。			上位成果指標	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合			%	93.3	89.6	84.9	92.0	92.0		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	21年度(実績)		22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)	
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
投入量	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円						15		15		
	一般財源	千円	1,138	1,207	1,404	1,502	1,502					
	事業費計(A)	千円	1,138	1,207	1,404	1,517	1,517					
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			臨時職員経費	203	臨時職員経費	167	臨時職員経費	229	臨時職員経費	273	臨時職員経費	273
			報償費	7	報償費	0	報償費	4	報償費	21	報償費	21
			旅費	44	旅費	26	旅費	20	旅費	43	旅費	43
需用費			269	需用費	263	需用費	325	需用費	288	需用費	288	
通信運搬費			31	通信運搬費	30	通信運搬費	248	通信運搬費	48	通信運搬費	48	
傷害保険料			5	傷害保険料	4	傷害保険料	5	傷害保険料	13	傷害保険料	13	
作成委託料			135	作成委託料	323	作成委託料	206	作成委託料	385	作成委託料	385	
事務機借上料	444	事務機借上料	394	事務機借上料	369	事務機借上料	446	事務機借上料	446			
人件費	人	3	2	2	2	2	2	2	2			
のべ業務時間	時間	2,000	750	750	750	750	750	750	750			
人件費計(B)	千円	7,882	3,041	3,026	3,026	3,026	3,026	3,026	3,026			
トータルコスト(A)+(B)	千円	9,020	4,248	4,430	4,543	4,543	4,543	4,543	4,543			

事務事業名	葛生化石館運営事業	担当部	生涯学習部	担当課	葛生化石館	担当係	
-------	-----------	-----	-------	-----	-------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	それまで郷土資料室の一部に化石を展示するという形であったものを、平成14年度に改装し、化石・鉱物・各種標本などを展示する「化石館」とした。平成17年1月拡張し、2月の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置により、展示内容が充実した。平成17年度博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。現在ボランティアが運営に協力しているが、新規加入が少ない。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取り組み

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取り組み
やり方改善(成果向上の見直し)	これまでパンフレットを配置していなかった施設への設置を行い、施設のPRを図った。吉澤記念美術館、葛生伝承館、佐野市立博物館との連携事業を実施したり、各種イベント協力などにより、入館者が増えた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	地域の化石・鉱物等を通し、自然史の理解を深めることは郷土への愛着を育むことにつながり妥当である。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	入館者に対し、地元石灰産業界への理解を促す使命は大きい。本施設は、化石資源の保護、活用を併せ持つ数少ない施設であり、市が行う事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	入館者数は増加傾向にあるが、更に市民や外部等に周知する。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成21年度は館長が配置され職員3名体制となったが、22年度はふたたび2名体制に戻り、人件費削減の余地はない。事業費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	博物館法では、公立博物館は入館料、その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないと規定されており、例えわずかな入館料を徴収しても、それにかかる経費の方が大きく入館者も減少する可能性があるため、このままで適正と考える。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	博物館を存続するためには、本事業は休止も終了もできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
やり方改善(成果向上の見直し)(有効性④の結果) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 施設の更なるPRを図る。また、案内板の設置などを検討し来館者が迷わず訪れることができるようにする。説明展示・解説資料の充実を図っていく必要がある。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	案内板の設置などには経費がかかるので最小の経費で何ができるかを検討。解説はボランティアを育成することで解決できる。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			